

相互提案型協働事業実施報告書

令和8年 4月21日

(宛先) 座間市長

団体 住 所 座間市緑ヶ丘5-6-28

名 称 特定非営利活動法人 きづき

代表者名 岩田 文子



市 担当課名 福祉部 地域福祉課

所 属 長 曾我 豊一



次のとおり報告します。

1 事業名	障がいを持たれた方が親なき後も地域で安心して幸せに暮らすための講座
2 事業形態	☒ 市民活動団体提案協働事業 ☐ 市提案協働事業
3 選考年度	令和6年度選考 (令和7年度実施)
4 報告期間	令和7年4月1日 から 令和8年3月31日 まで
5 事業費	375,000 円 (うち座間市支出分 344,000) 円
6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	「成年後見制度」、この制度を理解している人は少ないと思います。当法人でも8050問題を抱えている方がいます。「私達が死んだあと、この子はどうやって暮らしていくのか・財産はどうやって管理していくのかを考えると不安で死にきれない」という言葉を伺いました。今回はこうしたご両親の不安の払拭に繋がることを目指します。 内容として、一人では決めることに不安や心配な人の「親なき後」より「親あるうちに」をサポートする制度、法定後見制度と任意後見制度（未成年を含む）を実際に活躍している方から教えて頂きます。 色々なことを決めることが心配な方が、自分らしい安心した生き方を見つける講座。
7 添付資料	■ 収支決算書 ■ 事業詳細報告書 ■ 事業記録写真 ■ チラシなどの広報資料 ■ 作成した冊子などの資料 ☐ その他 ()

相互提案型協働事業 評価シート

事業名	障がいを持たれた方が親なき後も地域で安心して幸せに暮らすための講座
-----	-----------------------------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	所期の目的は、十分達成できましたか。	
	アンケート結果から耳慣れない制度「後見人制度」を講座参加者が認識したことが分かり、目的を達成できたと思う。	成年後見制度の周知と、障がいのある子を持つ親への情報提供を行い、達成できたと考える。
事業成果・効果	事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。	
	講座ごとのアンケート結果を見ると、ほとんどの方が「わかりやすかった」「勉強になりました」等、成年後見制度を知るきっかけになったと感じている。	障がいのある子を持つ親が、親なき後の子の生活を案じている方が多いなか、成年後見制度を活用することで子が地域で安心して生活できる方法を知ることができた。

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。	
	地域福祉課と当法人と協議を重ねて役割分担などを話し合い目的の確認の共通認識ができた。	事業開始までに数回の打合せやメールでの情報交換により、共通認識のもと事業を行うことができた。
事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	毎回、会場設定や役割分担を確認し合い、スムーズに行うことができた。	必要な情報交換を行うことにより、スケジュールどおり実施できた。
対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	講座に向けて役割分担を明確にしていたのでスムーズに行えた。	お互いの役割を果たし、対等な立場で事業を実施できた。

相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	講座に向けて役割分担を明確にしていたのでスムーズに行えた。	お互いの強みを生かし、事業を実施できた。

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果たすことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	（団体の役割） チラシは「きづき」が作成し修正は担当課。広報誌掲載配布、LINE、HPは担当課。具体的講座段取り、演者との調整、当日段取りは「きづき」。	（市の役割） 市民に対する事業の周知、会場の確保、資料の印刷。

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適 正 さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	適正だったと感じ役割を果たせたと思います。。	適正であった。
実 施 結 果	設定した役割分担を果たすことができましたか。	
	当事業所の利用者が両親が高齢のため母が心配していたが、講座に出て成年後見促進センターに相談に行くことができた。	できた。
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	
	座間市の一般市民はもちろんの事、包括支援センター等、関係団体の参加があり、後見人制度の周知が広がった。	講師の手配や資料の作成は、団体が行うことで目的に合った講師を選定し、理解が進む資料を作成するなど、協働事業の効果を感じることができた。

4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
	（団体の考え） 成年後見促進センターがあるので、今後もっと活用できて安心につながって欲しいと願います。	（市の考え） 本事業をきっかけとし、成年後見利用促進センターとともに成年後見制度の利用促進を図っていきたい。